

AICS (アミノインデックス がんスクリーニング) 検査の概要

AICSとは



血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康な人とがんである人のアミノ酸濃度のバランスの違いを解析し、現在がんであるリスク(可能性)を評価する検査です。

AICS検査の特徴

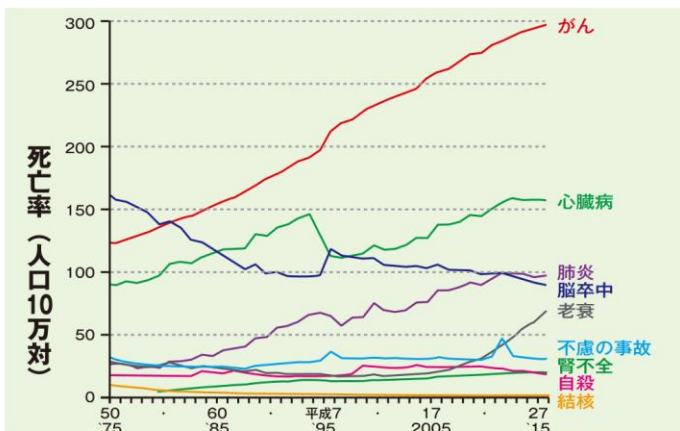
- 1 血液中のアミノ酸濃度測定による全く新しいタイプの検査です。
- 2 一度の採血で複数(男性5種、女性6種)のがんを同時に検査できます。
- 3 早期のがんにも対応した検査です。
- 4 結果は、ランクA、B、Cの3段階で表示します。ランクCは、がんの可能性が高く精密検査が必要です。

AICSの対象となるがんと年齢

対象がん	対象年齢
胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん	25歳～90歳
前立腺がん	40歳～90歳
子宮がん・卵巣がん	20歳～80歳

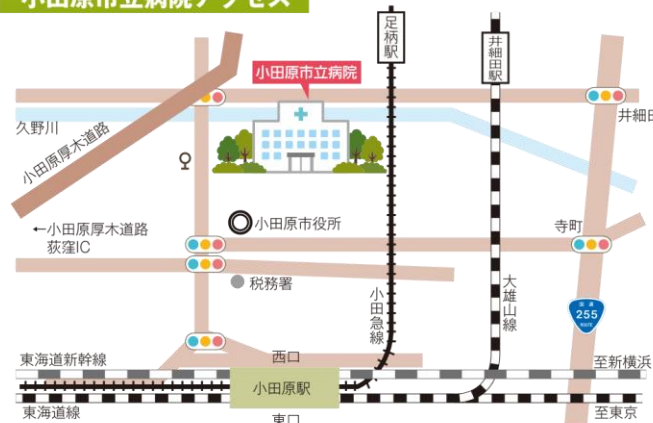
PET/CT・AICSがん検診で異常所見が疑われた場合は、引き続き当院の当該科を受診されますようおすすめいたします。

主な死因別にみた死亡率の年次推移



平成29年 厚生労働省「我が国の人口動態」より

小田原市立病院アクセス



電車・バスご利用の場合

- JR・小田急線 小田原駅下車
東口よりバス②番乗り場
市役所前・市立病院経由
フラワーガーデン・船原・北舟・久野車庫行き
市立病院前バス停下車
所要時間 約10分

タクシーご利用の場合

- 小田急線足柄駅下車徒歩10分
- 大雄山線井細田駅徒歩10分

お車の場合

- 西口よりバス②番乗り場
市役所前・市立病院経由
免河原循環・久野車庫行き
市立病院前バス停下車
所要時間 約6分
- 小田原厚木道路
荻窪インターから約5分



小田原市立病院

〒250-8558 神奈川県小田原市久野46番地

☎0465 (34) 3175 (代表)

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/hospital/>

PETで不安を取り除こう!!
がんの早期発見のために
PET/CT・AICS がん検診のご案内



小田原市立病院

Odawara Municipal Hospital

PET/CT・AICS がん検診とは

がん検診で最も重要なことは、がんを早期に発見し、早期治療につなげることです。早期発見のための有効な検査にPET/CT検査があります。

PET/CT検査は早期の小さながんの発見や正確な部位の特定などの診断が高い精度で出来ます。

しかし、PET/CT検査もスキルス胃がんや肺胞上皮肺がん等の発見には弱く万能ではありません。

そこで、不足分を補うため、血液検査である「AICS(アミノインデックスがんスクリーニング)検査」を併せて実施することによって、更に精度の高いがん検診が可能となります。

ご自身の健康管理のため、PET/CT・AICSがん検診の受診をおすすめします。

申込方法

受診希望日の**2週間前**までに、ご来院又は電話でお申込みください。お申込み後、健康調査票、問診票などを郵送いたしますので、必要事項を記入の上ご返送ください。

※現在妊娠中又は妊娠している可能性のある方、がんと診断され治療中又は経過観察中の方、先天代謝異常の方、透析治療を受けている方、重い糖尿病の方は当検診を受診できませんのでご承知ください。

- 受付時間 毎週月～金曜日(祝祭日を除く)
8:30～17:00
- 申込み先 直接 1階ロビー①番受付窓口
電話 0465-34-3175(内線3108)
- 実施日時 毎週火・木曜日
(午前11時15分または11時45分)
- 料金 100,000円(税込)
(料金は、診療報酬の改定等により変更することがあります。)

検診の結果

検査日から約2週間後の月曜日か水曜日に当院で、医師から説明します。(申込み時に説明日の予約も、させていただきます。)

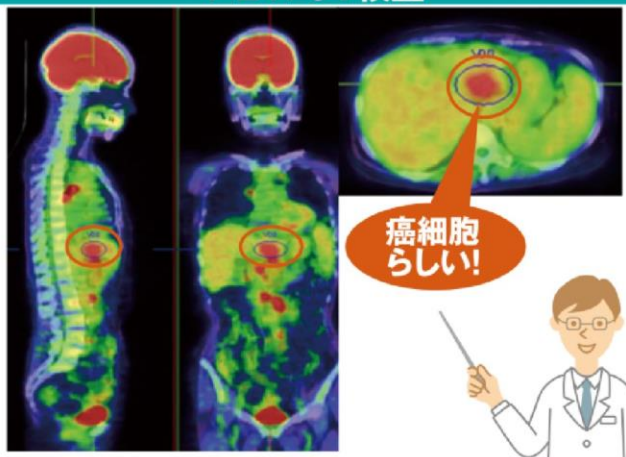
PET/CT検査 の概要

PET/CTとは

PETとは、Positron Emission Tomography(陽電子放射断層撮影)の略で薬剤(PET製剤)を注射し、その体内分布を特殊なカメラで映像化する診断法です。

さらにCT検査を組み合わせることで、より精度の高い画像診断が得られます。

PET/CT検査



PET検査

PETは組織やがんの活動状態(良性か悪性か、再発かどうか)などの情報を得るのに適しています。

PET/CT検査

PET/CT装置とは、PETとCTが一体型となった装置で、一度の撮影で全身のPET画像とCT画像を得ることができます。



CT検査

CTは組織やがんの細かな形態(がんの形や大きさ、どの臓器のどの部分に存在するかなど)の情報を得るのに適しています。

PETだけの画像に比べ、病変の位置とその範囲がより正確に判別できます。CT画像の異常部位についての質的評価ができ、診断性能が向上します。

検査の方法

検査は、まず静脈注射をした後、薬剤が全身に分布するまで約1時間ほど待ちます。撮影時間は約20分です。

PET/CTの検査をするにあたって

PET/CT検査は、大腸がん、肺がん、乳がんなど、数多くのがんを発見できますが万能ではありません。PET/CT検査1回の被曝量は8~10mSv(ミリシーベルト)です。(胃のバリウム検査の被曝量は4.0mSvです)

PET/CTによる画像診断は、次のような限界もあり、がんを100%診断し得るものではないことをご理解ください。

- PET製剤が尿として排泄されるため、腎臓や膀胱などのがんは検出が困難です。
- 炎症性疾患(胃炎や咽頭炎など)、甲状腺腫や大腸腺腫などの良性疾患に薬剤の集積が認められる場合があります。
- 悪性度の低いがんや一部ががん化しているなどがん細胞の占める割合の少ない腫瘍は検出されない可能性があります。
- 5mm以下の小さい腫瘍は装置の解像度の限界を超えるため検出が困難です。

がんの成長過程と早期発見について

PET検査では、レントゲンなどの検査では発見しづかった初期のがん細胞の発見が可能です。

